

桶狭間を過ぐ（大田錦城）

荒原弔古古墳前 戦克将驕何得全  
怪風吹雨晝如晦 驚破奇兵降自天

解説 桶狭間の古戦場を通って、その感慨を述べた詩。

荒原 古を 弔う 古墳の 前

戦い 克つて 将 驕る 何ぞ 全きを 得ん

怪風 雨を 吹いて 昼 晦の 如し

驚破す 奇兵の 天より 降る かと

語釈 ※荒原Ⅱ荒れた原野。※古墳Ⅱ今川義元の戦死地と伝えられる高さ四〇メートルくらいの丘がある。ここではその丘をさす。※戦克将驕Ⅱ「史記」の「戦勝ちて将驕り卒惰る者は敗る」の部分を踏んでいる。※晦Ⅱ暗くてよくわからないこと。※驚破Ⅱ驚かす。※奇兵Ⅱ奇策をもつて敵の不意をついて襲う兵。

通釈 いまは荒れ果てた原野の古墳の前にたたずみ、当時を弔う。ここで、今川の軍勢は、勝利に酔い、武将たちは驕りたかぶっていたので、どうして戦いを全うすることができようか。折りから、怪しい風が吹き出して、一天にわかにかきくもり、日中であるのに暗くなった。それに乗じて、織田の奇兵が攻め、今川の軍はあたかも天から兵が降ってきたかと驚いて、ついに敗北してしまつたのである。